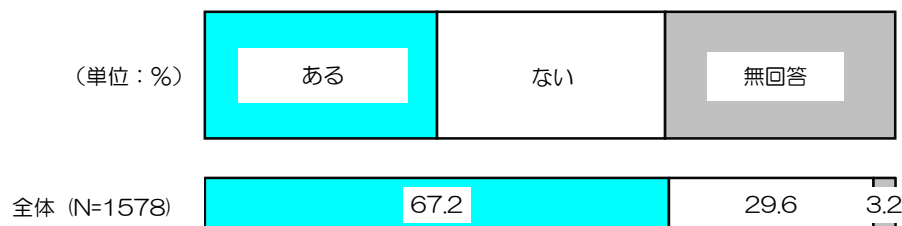


4 病院などの受診状況について

(1) 「かかりつけ医」の有無

問 2 1. あなたには、普段、体調が悪くなった時に利用する「かかりつけ医（医院・診療所など）」
がありますか。※入院のできる病院は除く（〇は1つだけ）

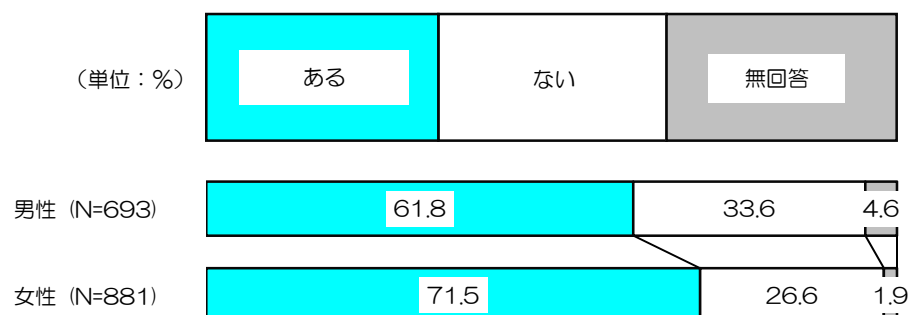
〔図表 4-1 「かかりつけ医」の有無〕



【全体の考察】

「かかりつけ医」の有無をたずねた。「ある」が67.2%で、「ない」が29.6%となっている。
(図表4-1)

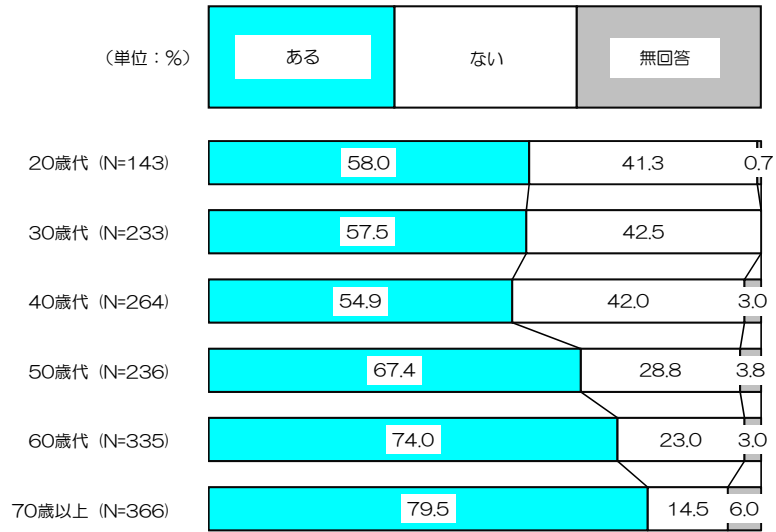
〔図表 4-1-1 「かかりつけ医」の有無（性別）〕



【性別の考察】

性別にみると、「ある」は『女性』が『男性』を9.7ポイント上回っている。(図表 4-1-1)

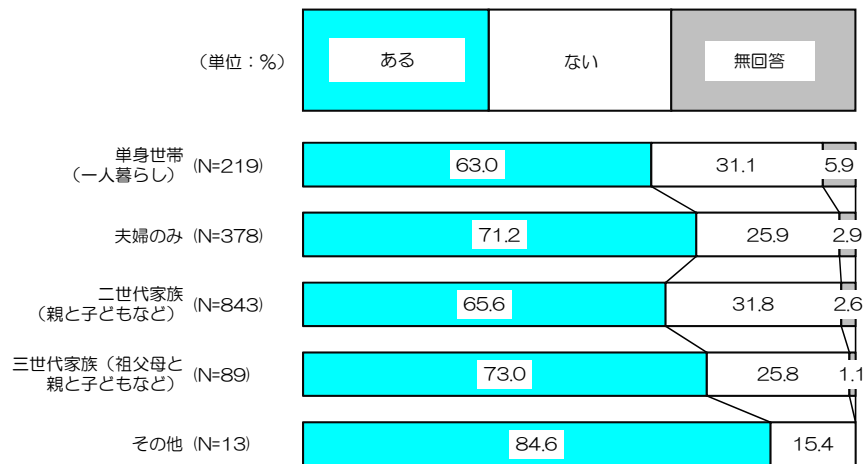
〔図表 4-1-2 「かかりつけ医」の有無（年代別）〕



【年代別の考察】

年代別にみると、『20～40 歳代』では「ある」がいずれも5割台であるが、『50 歳代』以上は年代が高くなるにつれ「ある」が高くなっており、『70 歳以上』では「ある」が79.5%となっている。(図表 4-1-2)

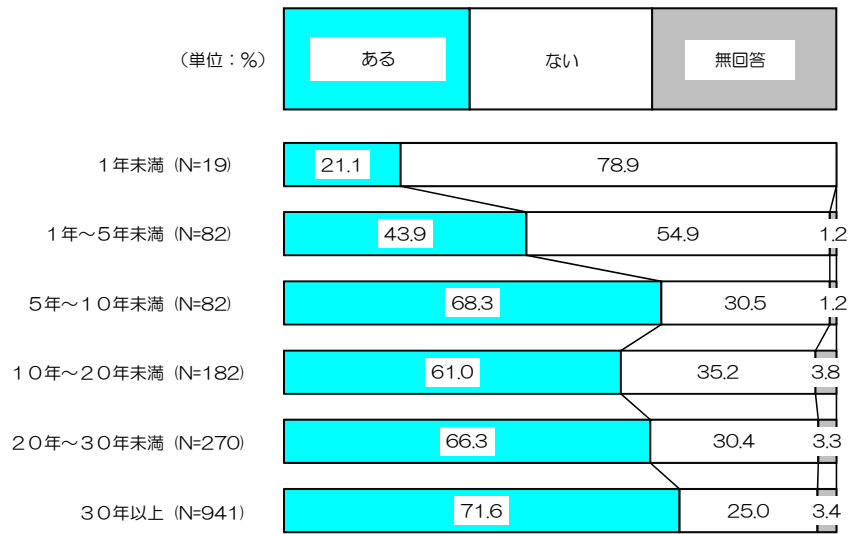
〔図表 4-1-3 「かかりつけ医」の有無（家族構成別）〕



【家族構成別の考察】

家族構成別にみると、『その他』を除くと、「ある」は『三世世代家族』で73.0%と最も高く、『単身世帯』で63.0%と最も低くなっている。(図表 4-1-3)

〔図表 4-1-4 「かかりつけ医」の有無（居住年数別）〕



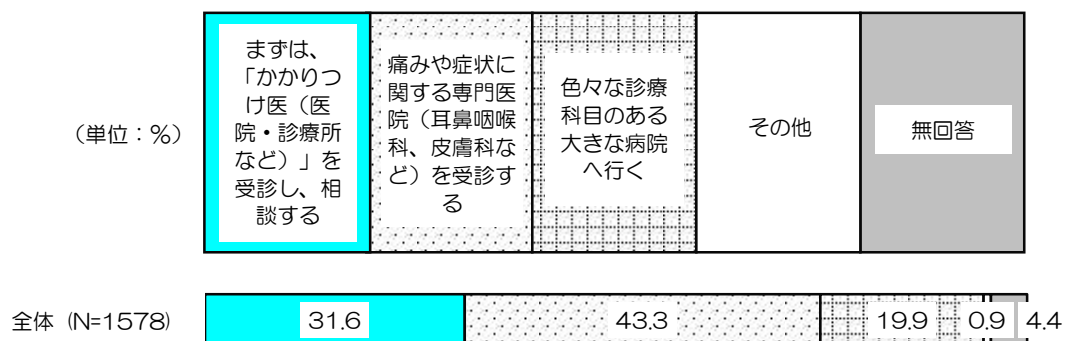
【居住年数別の考察】

居住年数別にみると、『5年～10年未満』以上では「ある」が6割強～7割強を占めているが、『1年未満』では21.1%、『1年～5年未満』では43.9%と低くなっている。(図表 4-1-4)

(2) 「かかりつけ医」の専門外の症状が出たときの行動

問22. あなたは、いつもと違う症状が出たり「かかりつけ医（医院・診療所など）」の専門外
 の受診が必要になった時、どう行動しますか。（○は1つだけ）

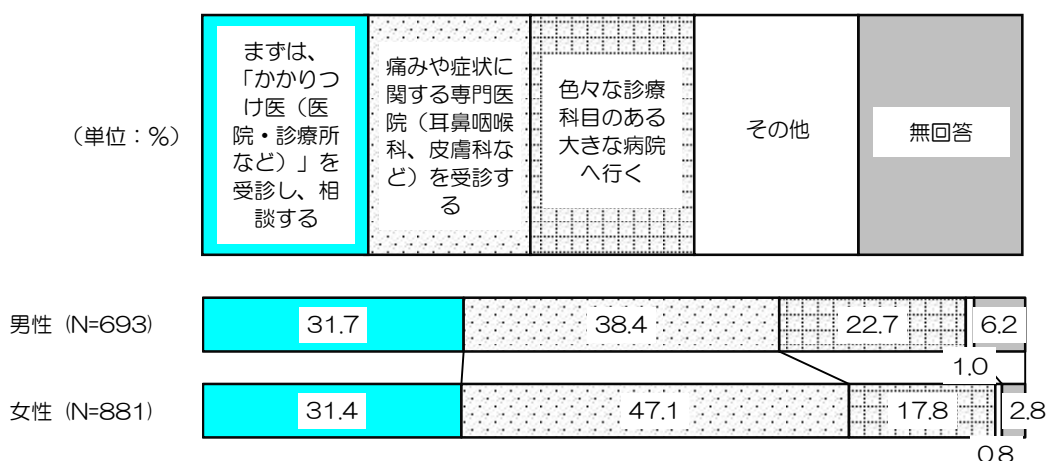
〔図表 4-2 「かかりつけ医」の専門外の症状が出たときの行動〕



【全体の考察】

「かかりつけ医」の専門外の症状が出た時の行動をたずねた。「痛みや症状に関する専門医院（耳鼻咽喉科、皮膚科など）を受診する」が43.3%で最も高く、次いで「まずは『かかりつけ医（医院・診療所など）』を受診し、相談する」が31.6%、「色々な診療科目のある大きな病院へ行く」が19.9%となっている。（図表4-2）

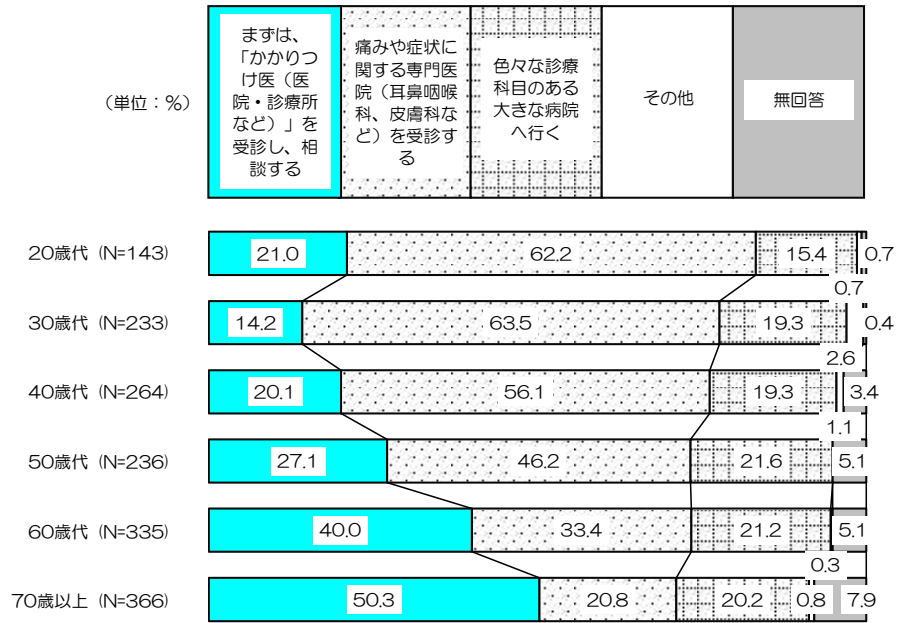
〔図表 4-2-1 「かかりつけ医」の専門外の症状が出たときの行動（性別）〕



【性別の考察】

性別にみると、「痛みや症状に関する専門医院（耳鼻咽喉科、皮膚科など）を受診する」は、『女性』が『男性』を8.7ポイント上回っている。「色々な診療科目のある大きな病院へ行く」は、『男性』が『女性』を4.9ポイント上回っている。（図表4-2-1）

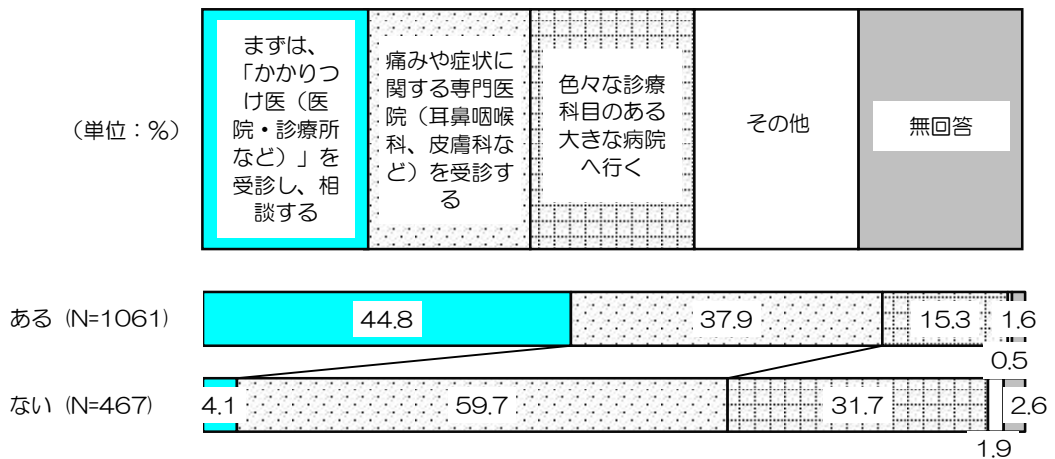
〔図表 4-2-2 「かかりつけ医」の専門外の症状が出たときの行動（年代別）〕



【年代別の考察】

年代別にみると、年代が上がるにつれ「痛みや症状に関する専門医院（耳鼻咽喉科、皮膚科など）を受診する」が低くなっており、「まずは『かかりつけ医（医院・診療所など）』を受診し、相談する」が高くなっている。（図表 4-2-2）

〔図表 4-2-3 「かかりつけ医」の専門外の症状が出たときの行動（かかりつけ医の有無別）〕



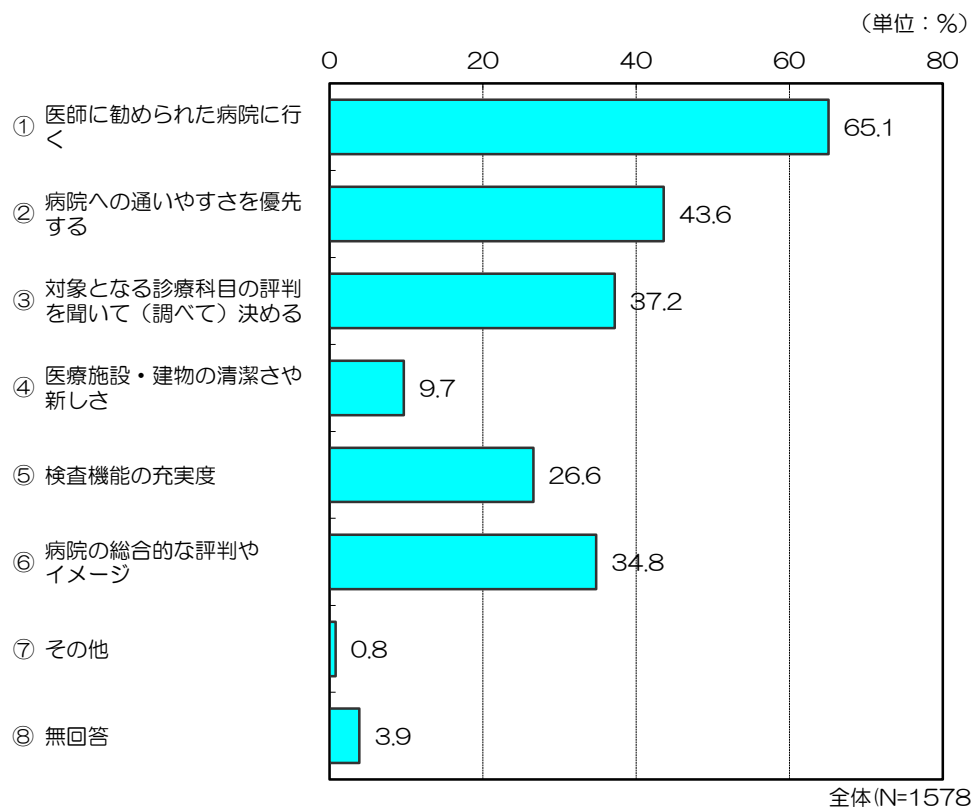
【かかりつけ医の有無別の考察】

かかりつけ医の有無別にみると、「痛みや症状に関する専門医院（耳鼻咽喉科、皮膚科など）を受診する」は、かかりつけ医が『ない』が『ある』を 21.8 ポイント上回っている。（図表 4-2-3）

(3) 他の病院の受診が必要な場合の病院を選ぶ視点

問23. あなたは、利用する「かかりつけ医（医院・診療所など）」や専門医院で、他の病院での入院や精密検査が必要と診断された時、受診する他の病院をどのような視点で選びますか。（〇はいくつでも）

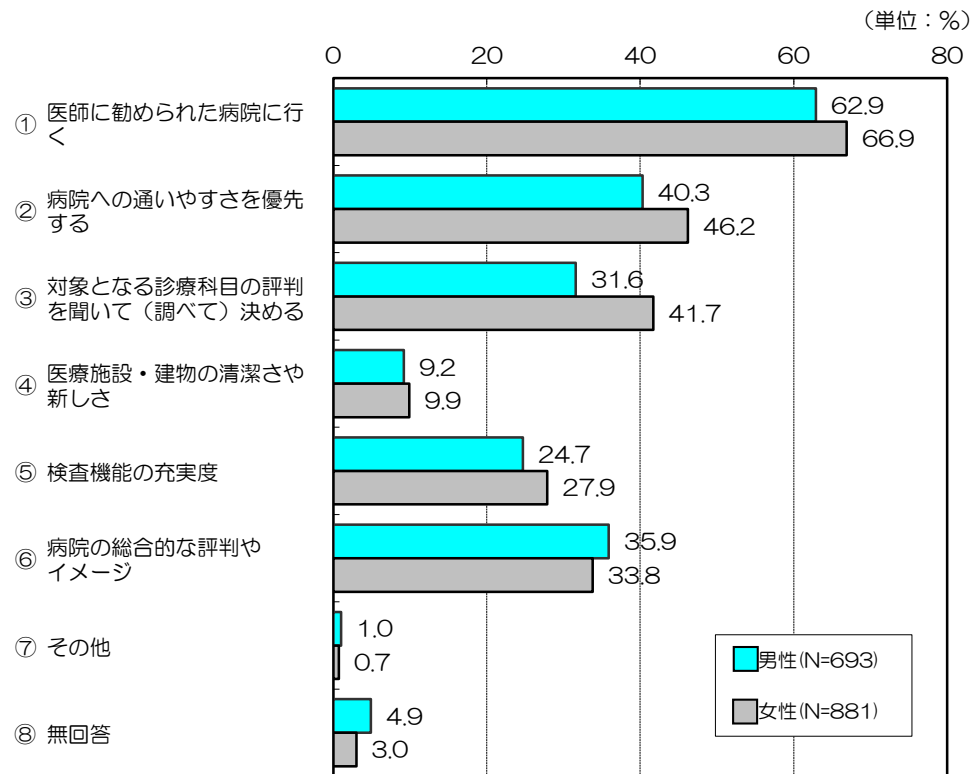
〔図表 4-3 他の病院の受診が必要な場合の病院を選ぶ視点【複数回答】〕



【全体の考察】

他の病院の受診が必要な場合の病院を選ぶ視点をたずねた。「①医師に勧められた病院に行く」が65.1%で最も高く、以下、「②病院への通いやすさを優先する」(43.6%)、「対象となる診療科目の評判を聞いて（調べて）決める」(37.2%)、「⑥病院の総合的な評判やイメージ」(34.8%)となっている。(図表4-3)

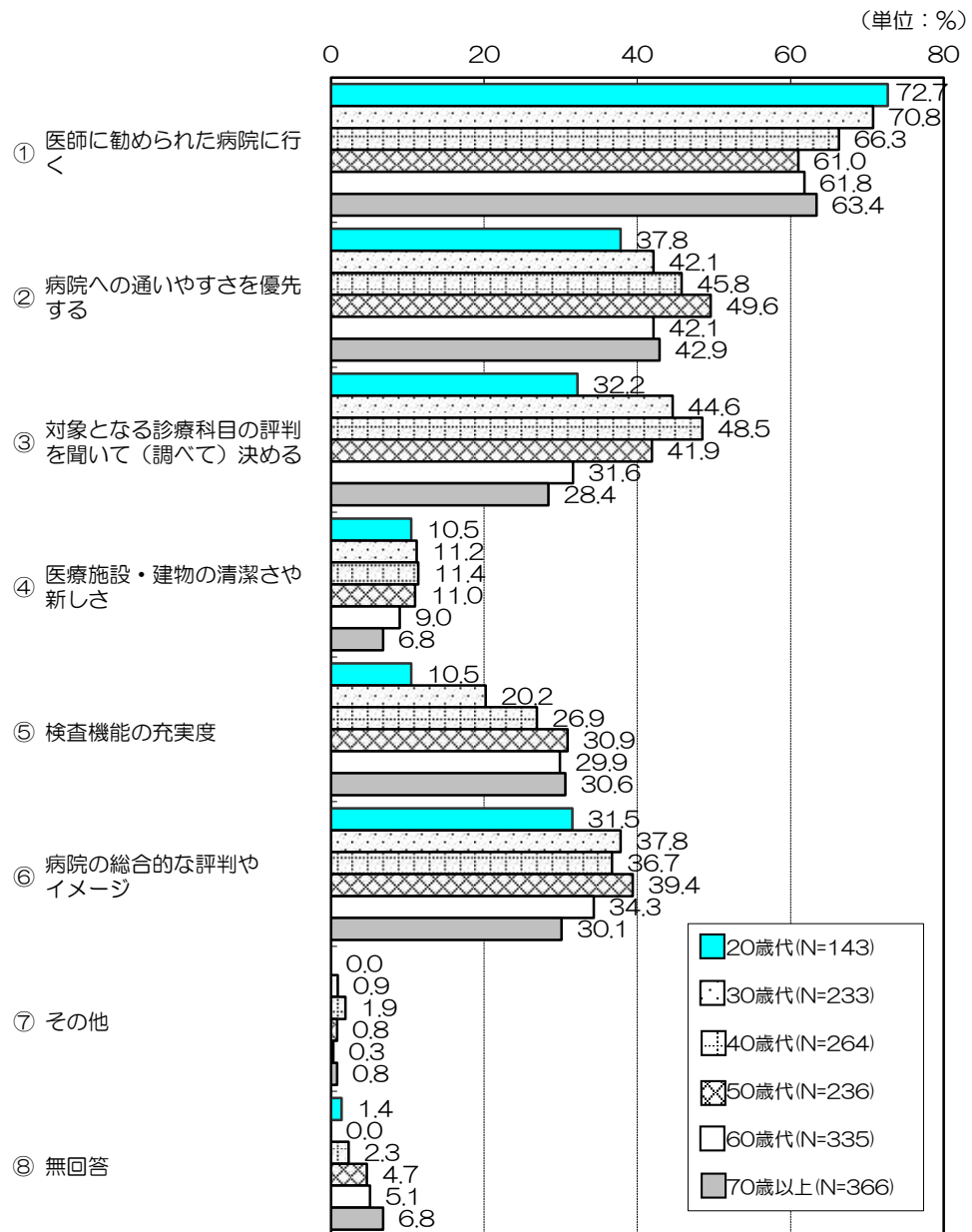
〔図表 4-3-1 他の病院の受診が必要な場合の病院を選ぶ視点【複数回答】（性別）〕



【性別の考察】

性別にみると、「③対象となる診療科目の評判を聞いて（調べて）決める」は、『女性』が『男性』を10.1ポイント上回っている。（図表 4-3-1）

〔図表 4-3-2 他の病院の受診が必要な場合の病院を選ぶ視点【複数回答】（年代別）〕



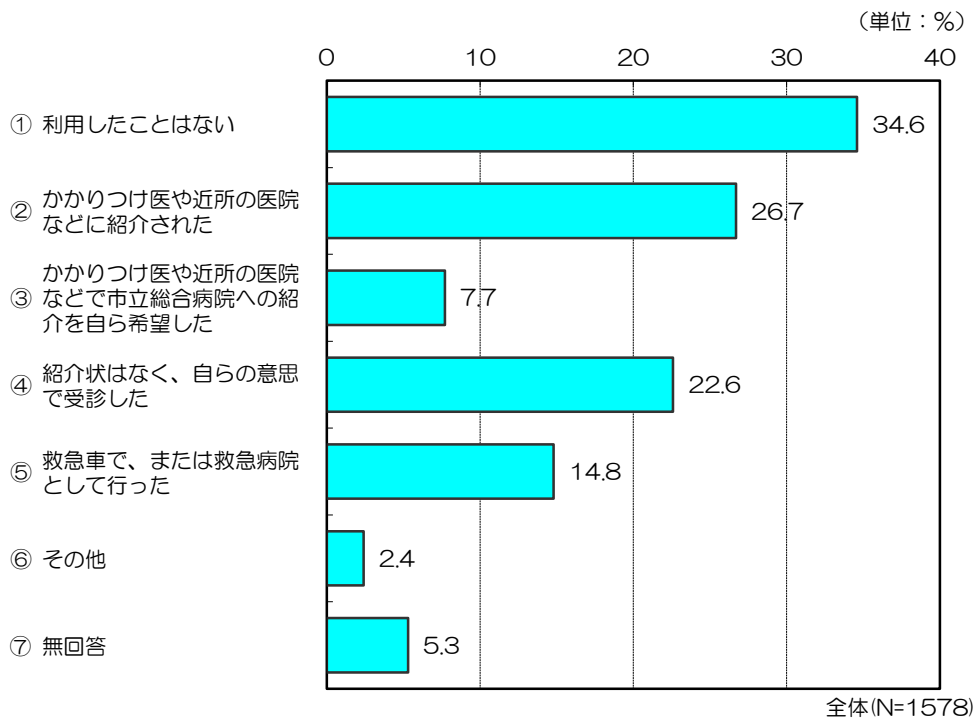
【年代別の考察】

年代別にみると、「①医師に勧められた病院に行く」は『20～30歳代』で高く、「③対象となる診療科目の評判を聞いて（調べて）決める」は『30～50歳代』で高くなっている。「⑤検査機能の充実度」は、『50歳以上』で高くなっている。（図表 4-3-2）

(4) 市立総合病院の受診の状況

問24. あなたまたは、同居ご家族は、市立総合病院で受診（入院）されたことがありますか。受診（入院）したことがある場合、どのようないきさつで受診（入院）されることになりましたか。（○はいくつでも）

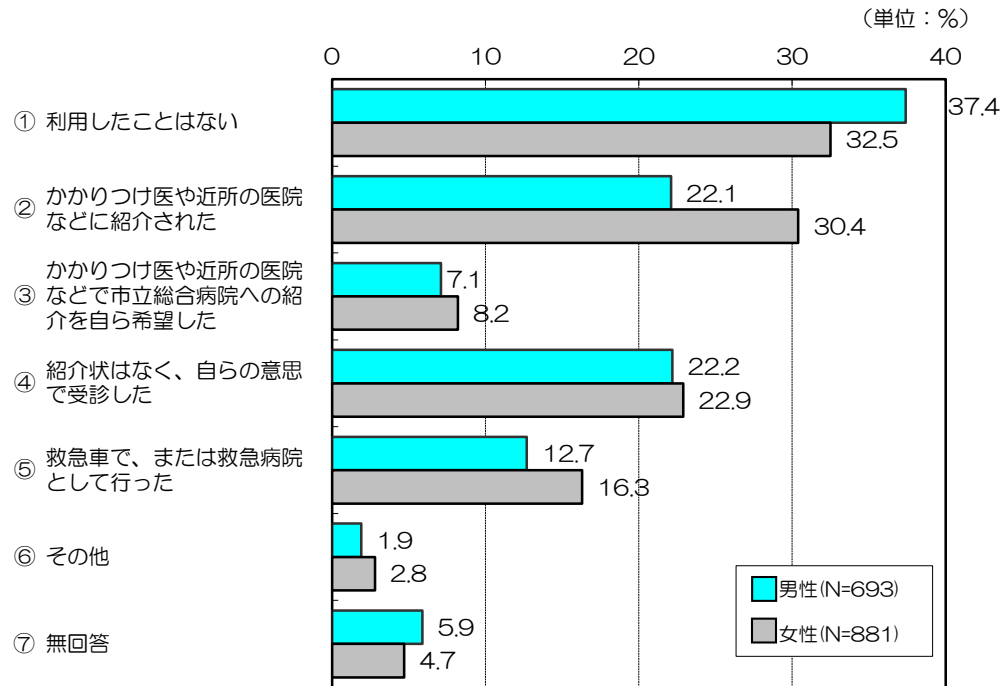
〔図表4-4 市立総合病院の受診の状況【複数回答】〕



【全体の考察】

市立総合病院の受診の状況をたずねた。「①利用したことはない」が34.6%で最も高く、以下、「②かかりつけ医や近所の医院などに紹介された」(26.7%)、「④紹介状はなく、自らの意思で受診した」(22.6%)となっている。(図表4-4)

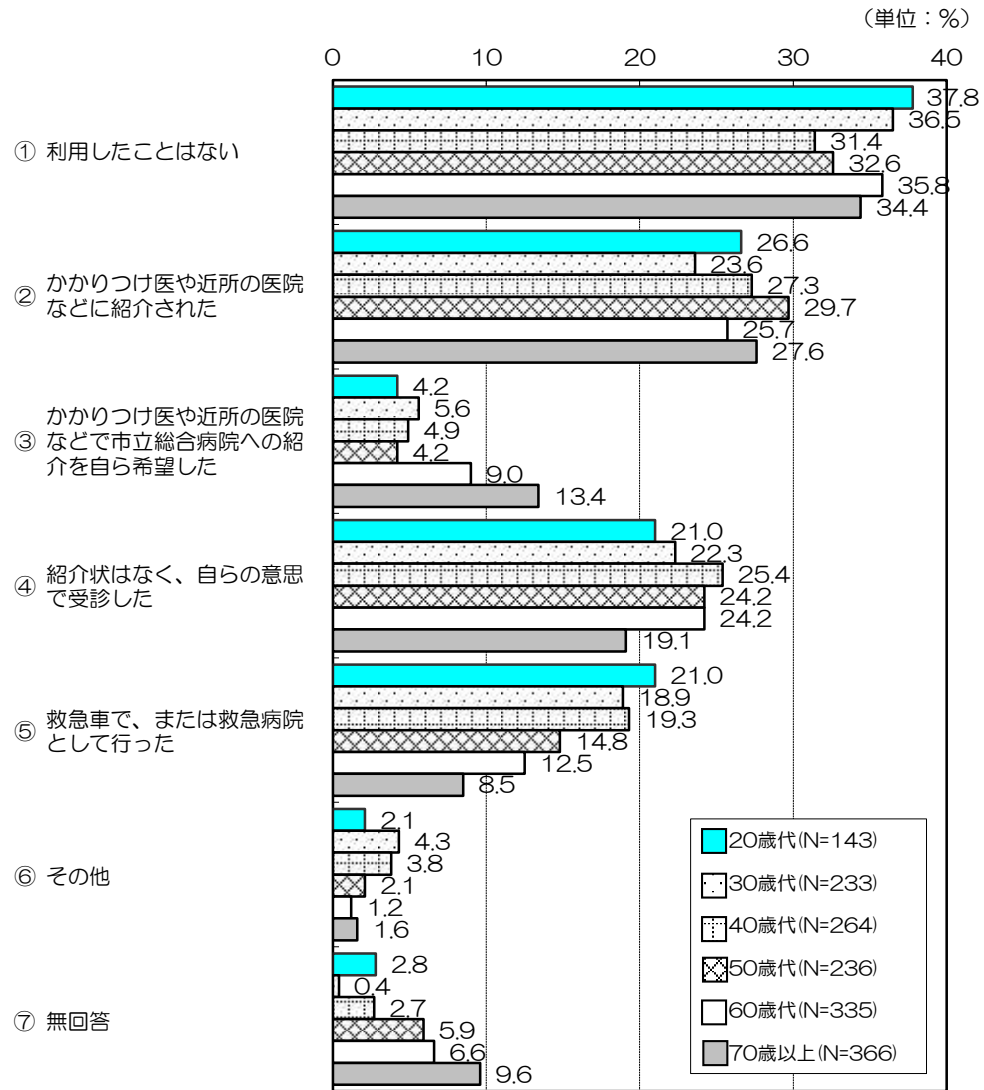
〔図表 4-4-1 市立総合病院の受診の状況【複数回答】（性別）〕



【性別の考察】

性別にみると、「②かかりつけ医や近所の医院などに紹介された」は、『女性』が『男性』を 8.3 ポイント上回っている。(図表 4-4-1)

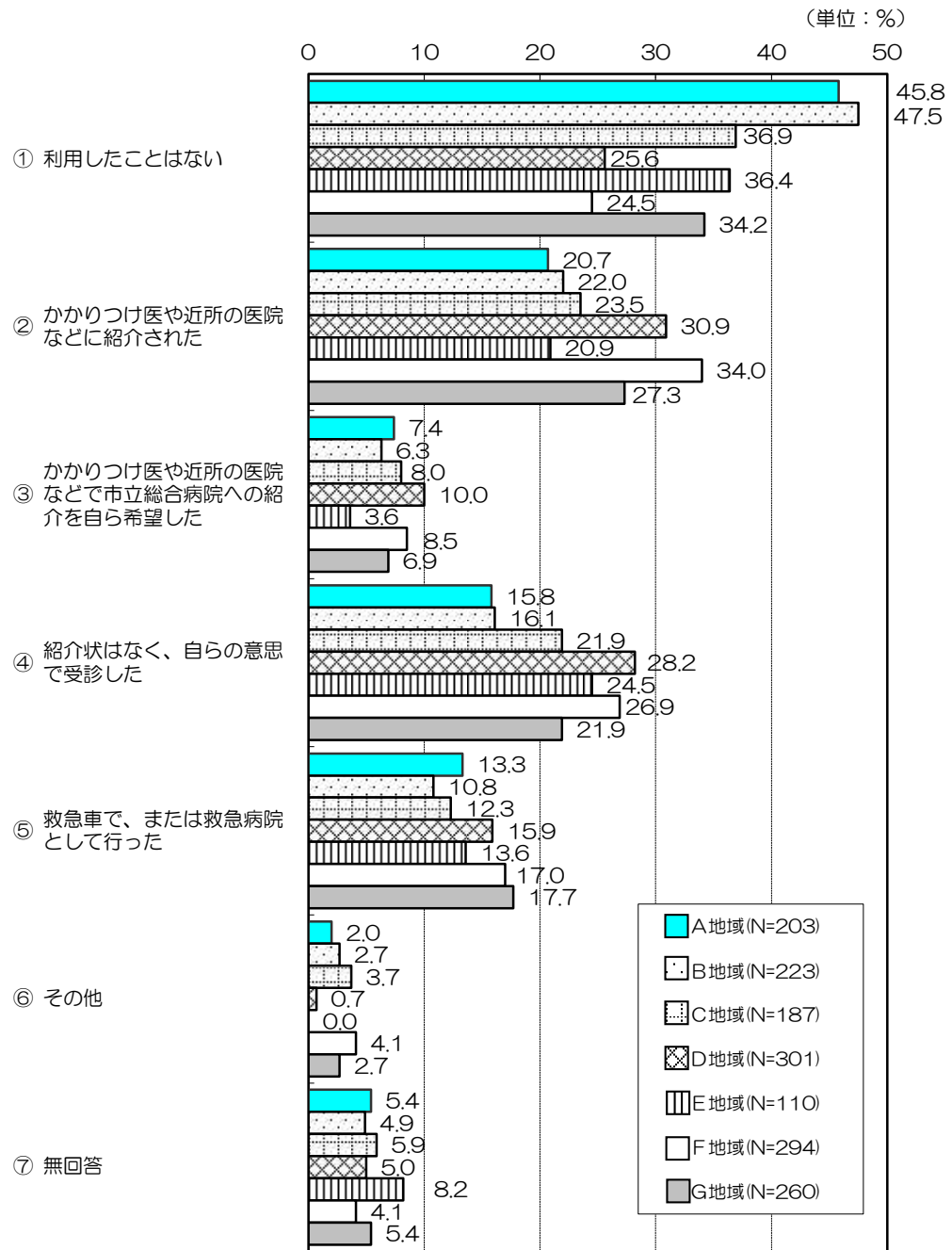
〔図表 4-4-2 市立総合病院の受診の状況【複数回答】（年代別）〕



【年代別の考察】

年代別にみると、「③かかりつけ医や近所の医院などで市立総合病院への紹介を自ら希望した」は、『60歳以上』で高くなっている。「⑤救急車で、または救急病院として行った」は、年代が下がるにつれ高くなっている。(図表 4-4-2)

〔図表 4-4-3 市立総合病院の受診の状況【複数回答】（居住地域別）〕



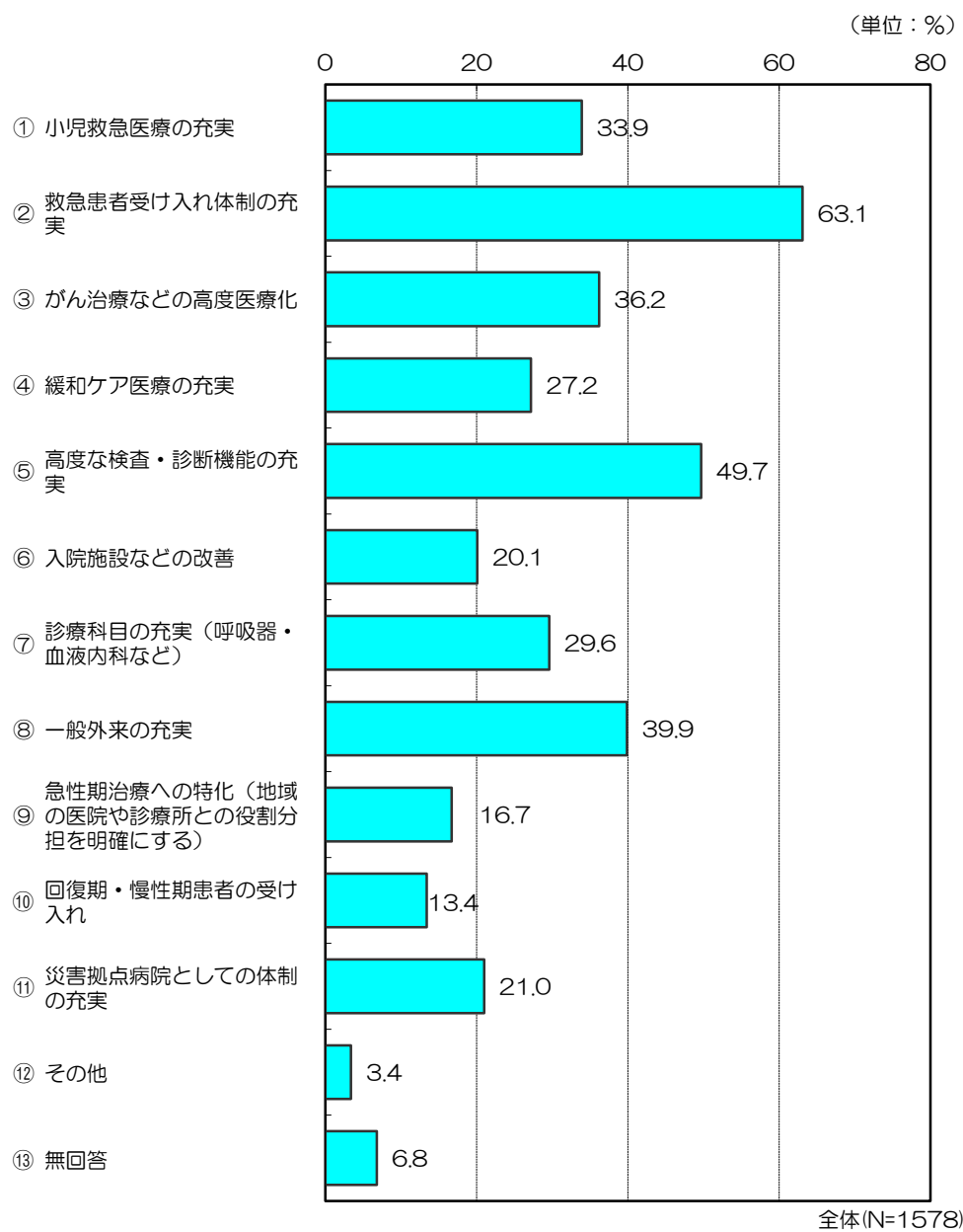
【居住地域別の考察】

居住地域別にみると、市立総合病院を「①利用したことはない」は『A地域』『B地域』で高く、『D地域』『F地域』で低くなっている。「②かかりつけ医や近所の医院などに紹介された」は『F地域』で最も高く、「③かかりつけ医や近所の医院などで市立総合病院への紹介を自ら希望した」「④紹介状はなく、自らの意思で受診した」は『D地域』で最も高い。(図表 4-4-3)

(5) 市立総合病院に期待する取組み

問25. あなたは、市立総合病院が市域の中核的な病院としての役割を果たすために、どのような取組みに期待しますか。重要と思われることを選びください。(〇はいくつでも)

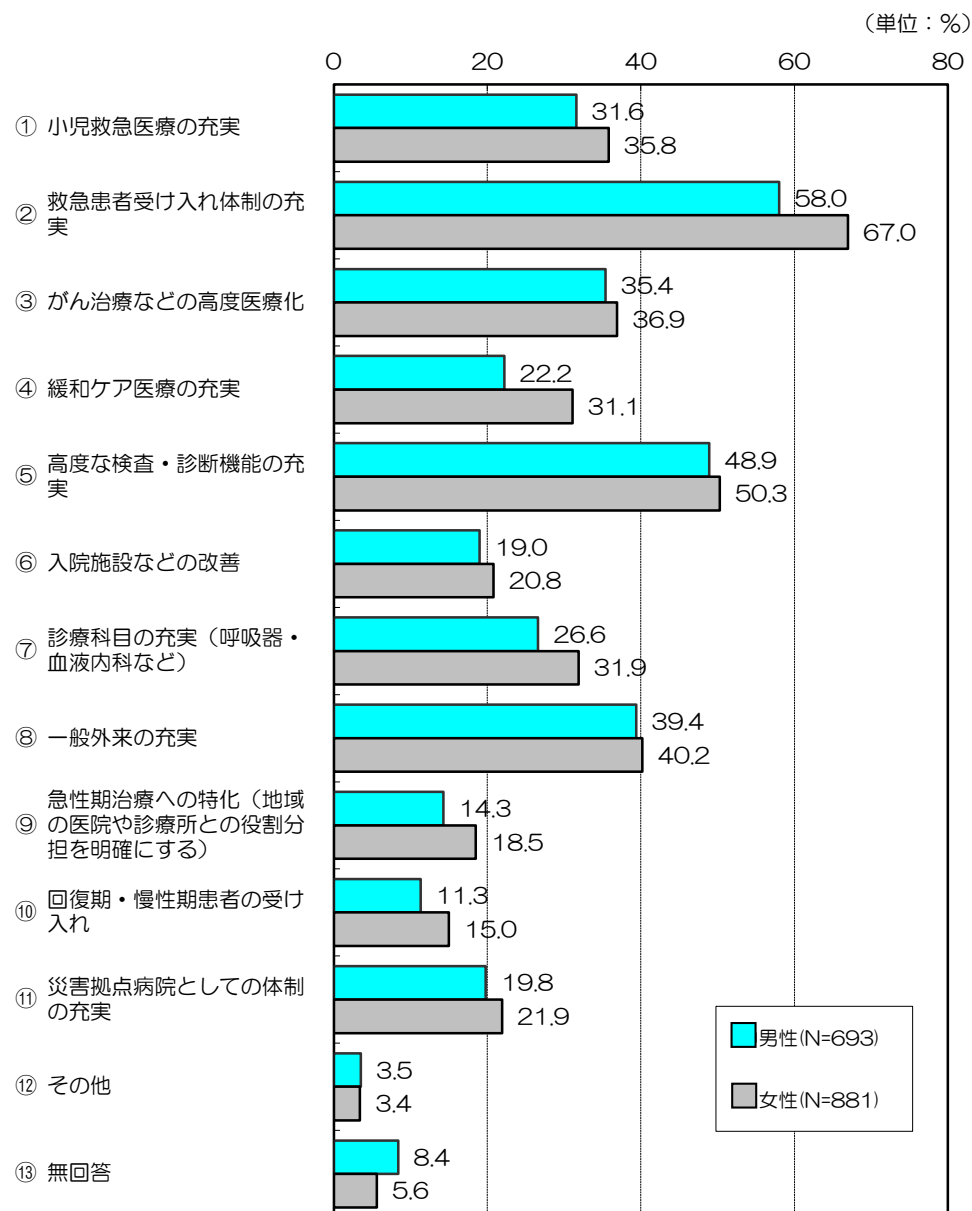
〔図表 4-5 市立総合病院に期待する取組み【複数回答】〕



【全体の考察】

市立総合病院に期待する取組みをたずねた。「②救急患者受け入れ体制の充実」が63.1%で最も高く、以下、「⑤高度な検査・診断機能の充実」(49.7%)、「⑧一般外来の充実」(39.9%)となっている。(図表4-5)

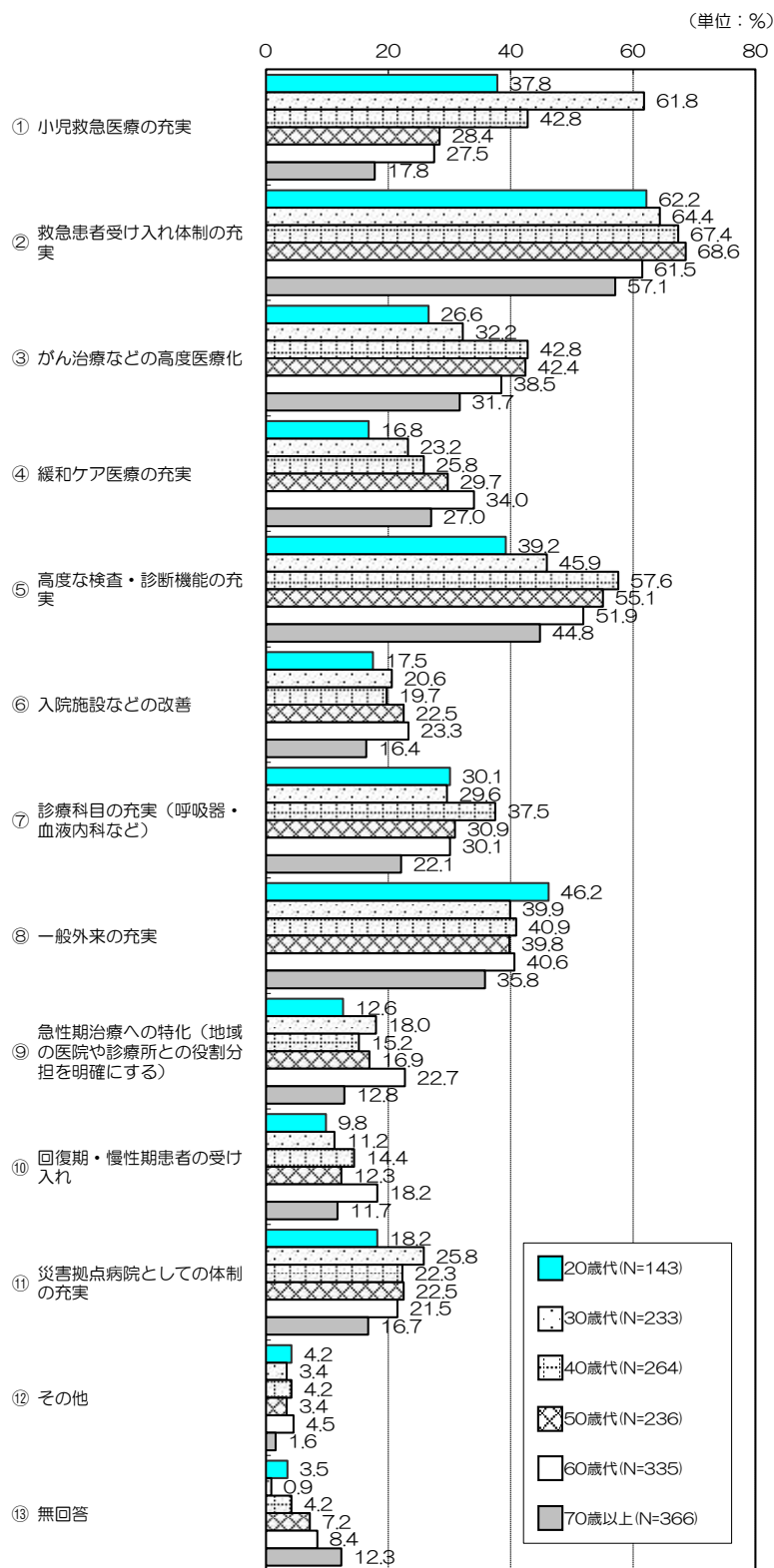
〔図表 4-5-1 市立総合病院に期待する取組み【複数回答】(性別)〕



【性別の考察】

性別にみると、「⑫その他」と「⑬無回答」を除く全ての項目で『女性』の方が高く、特に「②救急患者受け入れ体制の充実」は、『男性』を9.0ポイント上回っている。(図表 4-5-1)

〔図表 4-5-2 市立総合病院に期待する取組み【複数回答】（年代別）〕



【年代別の考察】

年代別にみると、「③がん治療などの高度医療化」「⑤高度な検査・診断機能の充実」は『40～50 歳代』で高くなっている。また、「①小児救急医療の充実」は『30 歳代』で特に高くなっている。（図表 4-5-2）